

経営比較分析表（平成30年度決算）

埼玉県 幸手市

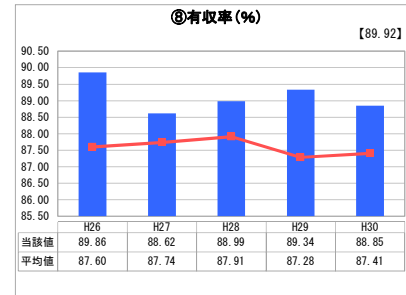
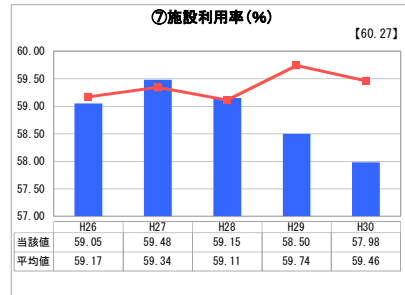
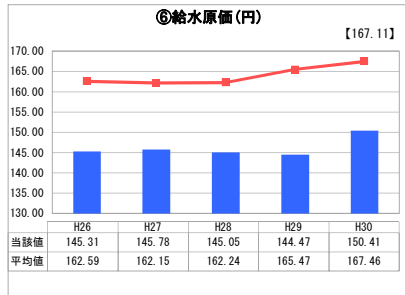
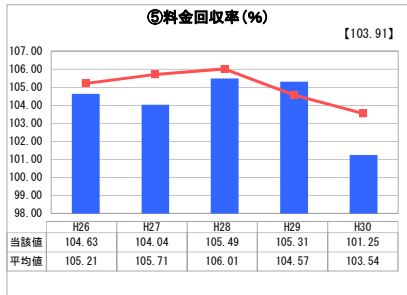
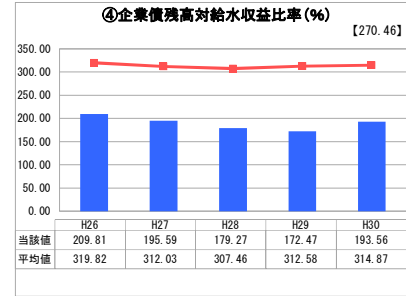
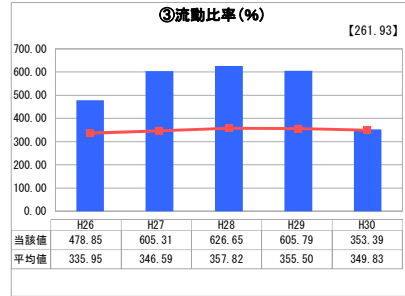
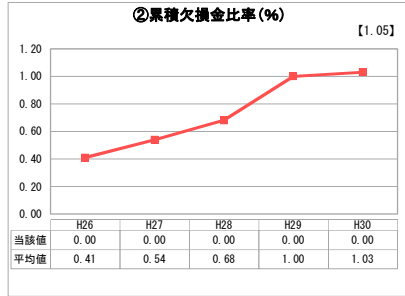
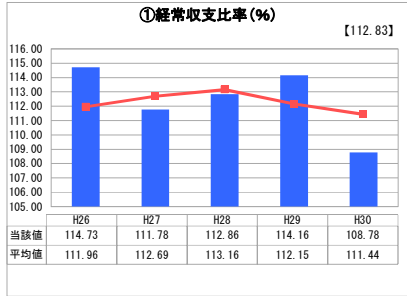
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	75.03	99.99	2,592	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
51,338	33.93	1,513.06
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
51,221	33.93	1,509.61

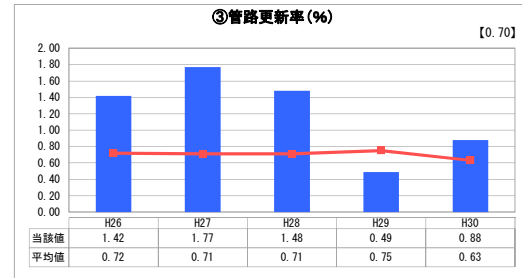
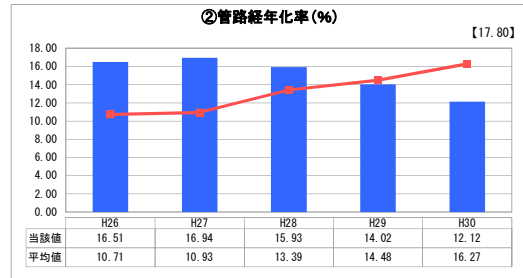
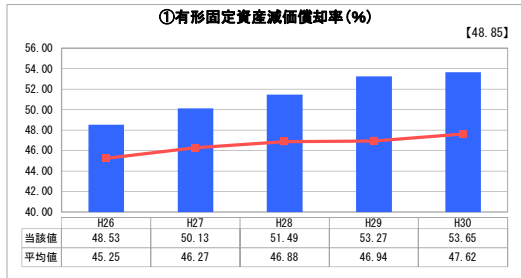
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【①経常収支比率】…指標は100%を上回り、経営の健全性は確保しています。しかしながら、人口減少に伴い給水収益や分担金収入が減少したことや、既存設備の更新に伴う資産減耗費が増加したことにより比率は低下しています。

【②累積欠損金比率】…赤字経営による欠損金の発生は無く、経営の健全性が保たれています。

【③流動比率】…指標は100%を上回っており、短期的な債務への支払能力は十分確保できています。

【④企業債残高対給水収益比率】…平成30年度に企業債の借入を行ったため比率は上昇しましたが、直近5年間で企業債残高は減少しており、類似団体平均と比較しても数値は大きく下回っております。

【⑤料金回収率】…指標は100%を上回り、健全性は確保していますが、人口減少等に伴う有収水量の減少や、既存設備の更新に伴う資産減耗費が増加したことにより数値は低下しました。今後有収水量の減少や既存設備の老朽化に伴う更新需要の高まりにより数値は低下していくことが想定されます。

【⑥給水原価】…類似団体平均を下回り、費用を抑えて市民の皆様へ給水できていますが、有収水量の減少、老朽化した施設や管路の更新による減価償却費等の増加により、給水原価は上昇しています。

【⑦施設利用率】…水需要の減少により、施設利用率は低下し類似団体平均を下回っています。施設の更新の際には適切な施設規模を検討していきます。

【⑧有収率】…類似団体平均を上回っており、施設から配水した水を無駄にすることなく、市民の皆様へお届けすることができています。

2. 老朽化の状況について

【①有形固定資産減価償却率】…保有資産のうち5割超の減価償却が進み、類似団体平均を上回っています。施設や管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要の高まりが推測されます。

【②管路経年化率】…類似団体における指標の悪化傾向に対し、老朽管路の着実な更新を行っていることにより、当市においては改善傾向にあり、平成29年度以降は類似団体平均を下回っています。

【③管路更新率】…平成29年度においては、浄水施設の更新を優先して行ったため一時的に比率は低下しましたが、平成30年度においては比率は上昇し、類似団体平均を上回っています。保有資産全体の老朽度合いを示す管路経年化率との双方を踏まえて、適切な投資を行っていただけるよう、今後も計画的な管路の更新に努めていきます。

全体総括

各指標において、健全な経営を表す基準値を上回り、経営の健全性は保たれていると考えられます。しかしながら、近年、給水人口の減少等により水需要が低下し、水道事業の収益の大部分を占める給水収益や分担金収入は減少を続けており、経営環境はますます厳しいものとなっております。このような経営環境下において、水道施設や管路等の減価償却が進み、耐用年数を迎える資産は増加していくことから、更新投資に要する費用も増大し、これに充てる財源の確保も課題となっております。市民の皆様へ、安全な水を安定して供給するためには、これらの資産の計画的な更新を進めていく必要があることから、水道ビジョンや管路耐震等更新計画、経営戦略といった各種計画に基づいた事業運営を、これからも継続して行っていきます。